

支部だより

第 17号

2024年 3月 吉日

発行：総務委員会

特集記事 1

2023年千葉県稲門祭

『時代を生き抜く！』
～激動の世界を見据えて～ 開催報告

千葉県支部総務委員会
委員長 木内 健二
委員 深山 秀文

2023年11月26日（日）東京ベイ幕張ホールにおいて2023年千葉県稲門祭が開催され



ました。昨年同様、対面とオンラインのハイブリッド開催となり、参加者は対面300名、オンライン30名の

330名、ほかに来賓5名、応援部等の学生23名に参加いただきました。

当日はJR京葉線に遅延が発生、定刻より15分遅れて重田育哉氏（市原稲門会）の司会で開会しました。

第一部 講演会

〈文藝春秋取締役総局長 新谷学講演〉

新谷総局長からは、危機時代のリーダー論として、幅広い交友関係と豊富な取材経験に基づ



き、ダメなリーダーの事例を数々紹介いただくとともに、ご自身の危機管理は「文春の看板とブランドを守るかが最優先。常に最悪の事態が生じた場合を想定して」とお教えいただきました。また、『「逃げる・隠す・ウソをつく」ではなく、きれいごとでなくぶっちゃけで。それができるのが早稲田！』とのお話もありました。

「親しき仲にもスキャンダル」の発言には会場から笑いが漏れ、盛況な講演会となりました。

第二部 千葉県稲門祭及び総長懇談会

〈唐松公三支部長挨拶〉

昨年に引き続き対面とオンラインのハイブリッド開催となったこと、支部の活動として県内



の各稲門会との交流を深めるイベントの開催に新たに取り組んだこと、今後も各稲門会との交流、大学との連携の強化を推進していきたいとのお話がありました。

〈萬代晃校友会代表幹事挨拶〉

女性校友の活躍していること、コロナあけで校友会と支部との交流ができるようになり、大学にも活気が戻り、稲門祭をはじめとする行事も対面で盛況に開催できたこと、田中総長の二期目に入り、創立150周年に向けたロードマップを作成したとのお話とスポーツ強化募金への支援のお願いがありました。

〈齋藤美穂副総長挨拶〉

田中総長に代わり出席された齋藤副総長からは、自己紹介の後、創立150周年に向けて建学の精神に立ち返り、教育勅語を踏まえ、研究・教育・貢献、とりわけ社会への貢献を重視して取り組んでいくとのお話がありました。



研究では世界のトップ50を目指すこと、教育では基盤教育とデータ科学を全学生が学ぶ唯一の大学であるとともに、副専攻で文理横断の教育を行うこと、貢献ではボランティア活動やプロフェSSIONALZ・ワークショップ（企業が抱える課題の解決策を学生チームが企業の経営層に直接提案する課題解決型のワークショップ）の取組により

学生の人間的力量の育成を進めることが紹介されました。

さらに、最近の入試で慶応大学を凌駕していることや、質・量ともにトップの留学生とともに全学生の留学により国際化を推進、各種スポーツでの現役・OBが活躍、大学の財務体制も良好であるとの話しのほか、応援基金に多くの暖かな支援が寄せられていることのお礼と新9号館建設募金を含め、引き続きの支援のお願いがありました。

〈来賓紹介〉

大学から出席の本間知佐子校友会事務局長兼校友課長、田中勝千葉県地域担当課長、金森捷三郎校友会東京23区支部支部長が紹介され、一言ずつ



挨拶をいただきました。

第三部 懇親会

田中幸子氏（習志野稲門会）の司会のもと、鈴木周一実行委員長（同稲門会）の開会の挨拶、熊谷俊人千葉県知事の「激動の時代はまさに早稲田の時代」とのエールの後の乾杯の発声でスタート、4年ぶりに対面でのいつもどおりの懇親会となり、お酒を酌み交わしながら、至るところで親睦の花が咲きました。



応援部の生演奏により応援歌・校歌を声高らかに斉唱した後、中川英洋副実行委員長（市川稲門会）から閉会の挨拶があり、盛況のうちにお開きとなりました。

特集記事 2

2023年千葉県稲門祭を終えて

実行委員長
鈴木周一（習志野稲門会）

11月26日（日）晴れの好日、東京ベイ幕張ホールに300名の校友が参集し、千葉県稲門祭が開催されました。パンデミックの影響で、2020年は中止、2021年は講演・総長懇談会のみで懇親会なし、2022年はアクリル板に遮られての懇親会を余儀なくされました。2023年は実に4年ぶりとなる「本来の稲門祭」を目指し、実行委員一同鋭意準備を進めて参りました。とりわけ、大会成功の鍵となる「料理」と「応援団」の充実に努めました。「料理」については幕張ホールに直接出向いて料理の内容を吟味、「応援団」にはブラスバンドの伴奏を付けることとしました。

第一部の講演会は文芸春秋総局長、新谷学取締役役に、「危機の時代を生き抜くリーダー論」と題して熱弁をふるって頂きました。様々な政治家や芸能人のスキャンダル

を巡る裏話など興味深い話を伺うことが出来ました。

第二部の総長懇談会では、唐松支部長、萬代代表幹事の挨拶に続き、齋藤美穂副総長が総長代理として登壇しました。激動の時代における早稲田大学の現状、今後進むべき方向について講演をいただきました。

第三部の懇親会は千葉県知事、熊谷俊人氏による乾杯の音頭でスタートしました。一切の制約のない懇親会は大いに盛り上がりました。久しぶり



に会った校友同士は勿論、県内で横断的な活動をしている「なでしこ」「若手の会」などとの交流がなされました。

締めは応援団とブラスバンドによる「紺碧の空」「コンバットマーチ」「早稲田の栄光」「都の西北」の演奏と斉唱です。生の演奏と応援団の熱演により、会場のボル

ページは最高潮に。伝え聞いたところによると、涙を拭っている校友もいらっしやったとか。

実行委員の皆様、県内各地の校友の皆様のご協力に心より感謝致します。



特集記事 3

概算 2023年 千葉県稲門祭 会計報告

事務局長 藤瀬 敏彦

特別会計 (2023/11/26県稲門祭)

(金額単位:円)

収入の部		支出の部	
項 目	金 額	項 目	金 額
参加費収入	3,046,000	会場費等	3,912,810
支部総会出席補助費	301,000	講師車代	100,000
1千円×301名		イベント費用	0
支部総会出席補助費加算金	100,000	大学応援部	110,000
支部イベント開催補助費	150,000	実行委員会費用	74,200
総会開催補助費	150,000	事務費等	15,225
地区商議員懇談会開催補助	150,000		
前期繰越(一般会計より)	437,911		
他支部からの御祝儀	10,000		
		剰余金	132,676
合 計	4,344,911	合 計	4,344,911

2024年 県稲門祭開催決定！

【本年は6月30日（日）開催】



2024年 千葉県稲門祭 『日本から、そして』

～世界へ羽ばたく存在として～



イスラエルでの抗争や大国ロシアのウクライナ侵攻等で世界中は混とんとした状況に置かれており、また一方、経済においては M&A をはじめとする企業統合等目まぐるしい変化が起こっています。今回はそういった経済の変化の渦中でご活躍されている前ヤフー株式会社代表取締役社長、現 LINE ヤフー株式会社の顧問である小澤隆生さんをお迎えし企業の立ち上げから考える成功のポイントについて語っていただきます。また、田中総長には 150 周年、そしてその先の早稲田大学についてお話しいただきます。

★今年の県稲門祭懇親会はデキシーランドジャズの演奏で始まり、応援部のリーダー、チアリーダー、吹奏楽団による校歌で終演します。

2024年千葉県稲門祭の概要（対面・リモート併用開催）

日時：6月30日（日） 会場：東京ベイ幕張ホール 会費：10,000 円/人 リモート：1000 円/人

第一部 講演会（午後1時30分～2時30分）

演題： 『事業成功のポイント ～楽天イーグルス、PayPay 立ち上げから考える成功のポイント～』

講演者： 小澤隆生 前ヤフー株式会社代表取締役社長

第二部 総長懇談会（午後2時40分～3時55分） 田中愛治早稲田大学総長

第三部 懇親会（午後4時30分～6時35分）

会食（コース料理）／イベント：ニューオルリンズホットストーンパースによる演奏、校歌斉唱（応援部）

早稲田大学校友会 千葉県支部

2024年 県稲門祭開催決定（2）

事業成功のポイント

～楽天イーグルス、PayPay の立ち上げから考える成功のポイント～

第一部 講演会 講演者のご紹介

《小澤隆生氏 前 ヤフー代表取締役社長》

千葉県成田市生まれ、成田高校卒。

1995 年 早稲田大学法学部卒業

1995 年 CSK（現 SCSK）入社

1999 年 ビズシークを設立し、2001 年に楽天に売却

2003 年 ビズシークの吸収合併により楽天に入社、オークション担当役員に就任

2005 年 楽天野球団取締役事業本部長

2011 年 設立したクロコスをヤフー（現 LINE ヤフー株式会社）に売却

2012 年 ヤフーへ入社

2013 年 ヤフー執行役員としてヤフーショッピングを担当

2018 年 4 月 常務執行役員コマースカンパニー長に就任

●コマース、トラベル事業、金融事業を管轄

2019 年 6 月 ヤフー取締役 常務執行役員 COO に就任

2022 年 4 月 ヤフー取締役 代表取締役社長 社長執行役員 CEO に就任

2023 年 10 月 LINE ヤフー株式会社顧問、ZOZO 株式会社取締役



第二部 総長懇談会

今年は田中総長が出席され2032年に創立150周年を迎える早稲田大学が150周年、そしてその先にどのような大学になるべきか、また「社会が求める早稲田大学の姿」は何かについて熱く語られます。

第三部 懇親会

今年の懇親会はデキシーランドジャズの演奏で始まります。大勢の校友のみなさんがこぞ専断ホールに集い旧交を温めてもらいたいと思っています。お食事もお飲み物も豊富に用意し楽しい時間を過ごしていただけるようお待ちしております。

楽しいお食事の最後は皆さん揃っての校歌で締めさせていただきます。

応援部のリーダー・チアリーダー・軟楽楽団による指揮に合わせてみんなで胃を組み早稲田大学校歌を高らかに斉唱し県稲門祭の終わりを惜しみましょう。



●問合せ先：〒261-0013 千葉県美浜区打瀬 3-6-1-611 早稲田大学校友会千葉県支部
事務局 長 奥初富二男 Tel 080-3207-2748 E-mail :w.mimomi@gmail.com

◆TOPICS 1

なでしこ早稲田in千葉

2011年、当時千葉県支部の組織委員長をされていた市原の神藤さんの下、早稲田も学生に占める女性の数が過半数に迫ってきたのだから、女性に特化した組織を支部の中で作ってはどうかということになりました。事前に各稲門会へ女性会員が増えない理由をアンケート形式で集め、また当時年次の設立総会に300名を超える動員に成功した1979年の幹事の皆さんとお会いし、成功の秘訣等を伺うなど、情報収集に務めました。

そもそも女性会員が地域稲門会に数えるほどしか参加していないのは、当時の稲門会はゴルフと酒席が活動の柱で、それでは加入意義が薄いと感じる早稲田OGが多くいました。女性は子育てや家事を担う人が多い、かつ有職のOGも増え、仕事と家庭の両立に四苦八苦する中で、夜中心の会合は負担に感じます。ゴルフも同様です。加えて、子育て最盛期や介護が始まったときなどは、校友会活動どころではなくなってしまいます。しかし、OGたちの母校への思いは強く、ワセ女であることがファイトの源になる部分もあるのです。母校早稲田も女子学生数では日本一となったのですから、OGも自分たちらしい集まりを作りたい！そんな思いを形にしよう、多忙な時は稲門会活動を抑えても、稲門会や大学の状況が分かるような工夫、時間ができたときにスムーズに活動に参加できるような会を作ろう。「早稲田の絆と誇り」を共有する稲門会千葉県支部女性ネットワークを築いていきたいと、組織委員会の方針が決まりました。

女性の会設立にあたり千葉県支部の事務局長から各稲門会に女性の委員を呼びかけていただき、2011年7月11日に「稲門会千葉県支部女性ネットワーク」の発足会を船橋市で開くことができました。「稲門会の女性会員は千葉県全体で交流し、仲間作りをしよう。」を合言葉に、千葉県内の稲門会の女性会員14名が集まりました。



会の名称ですが「なでしこジャパン」がサッカーワールドカップで、優勝をかけて戦う前日でしたので、日本で一番盛り上がっている名前「なでしこ」に「早稲田in千葉」をプラスし、「なでしこ早稲田in千葉」、通称「なでしこ」としました。

今後の活動としては各稲門会の行事へ相互乗り入れをすること、なでしこ独自の企画を年に一・二回開催し、交流を深めていこうということにしました。独自企画としては、「手白澤温泉一泊旅行」、「早稲田駅伝」参加、講演会開催、オンライン講演会開催、食事会、会報「EGAOのリレー」のWEBでの発行、LINEグループでの交流など、地道な活動を続けました。

気が付けば活動を開始し、13年が経過しました。元々は県支部の組織の中になかった集まりです。県支部の援護がなければ、メンバーを集めることも、活動を継続することはできなかったでしょう。

「なでしこ」の活動は、県支部の中で徐々に認知されるようになり、2024年3月18日に大隈会館で開催される「幹事長事務局長会」のなかで「なでしこ」の活動を事例報告する機会を得ることとなりました。

「なでしこ」の活動の継続は、故角田支部長・前松平支部長・唐松支部長のご支援の賜物です。心から感謝申し上げますとともに、これからも着実な活動を続け、「早稲田文の絆と誇り」を共有する、自分達らしい集まりを継続していきたいと思っています。



土肥洋子(1978年 法) 習志野稲門会
佐藤苗穂子(1986年 文) 船橋稲門会

◆TOPICS 2

「若手校友の集い」(屋形船)

2023年9月23日(土)、浦安市当代島から、1艘の屋形船が出港。天気も良く、波も穏やかで、市川稲門会と隣接する浦安稲門会から総勢20名超の校友が乗船し、年齢層はおおむね20代から50歳未満で、いわゆる校友のなかでは「若手」と呼ばれる人たちです。

各稲門会には様々な集まりがあるところ、あまり上下関係に気を遣うことなく、同世代で気兼ねのない交流を目的としたもので、市川と浦安ではお隣ということもあり、若手を中心に交流が以前から活発で、これまで食事会などを、ときには、市川、浦安両三田会を交えて開催してきました。



今回の屋形船は、コロナ禍の直前に企画、日程まで決め、あとは開催だけだったのですが、コロナ禍で断念した経緯があります。今回、コロナが第5類になったこともあり、3年超えの歳月を経て実現に至りました。

乾杯の音頭あと、コース料理に舌鼓をうちながら、やがて、船は東京ディズニーランドのそばに一時停泊。船の屋根上からそのイルミネーションを気持ちの良い海風にあたりながら眺めました。

料亭を思わせる船内はとても小ざれいで、各席では、同じような年代もあってか、和気藹々とした雰囲気で行き交わす。

今回の開催にあたって、早稲田大学校友会千葉県支部より、若手校友交流の補助金をいただいたことからリーズナブルに開催でき、懐にやさしい会となりました。感謝です。



各稲門会の取組について、市川稲門会では2016年に若手の会を立ち上げ、市川市在住・在勤の若手校友を中心に、2～3か月に一度『グルメの会』や今回の『屋形船納涼会』のような親睦行事を開催しています。地元出身者のみならず、仕事や結婚等で新たに市川にいられた方も集まって、ビジネスや子育て、地域のイベント等についての情報交換を、美味しい食事と共に楽しんでいきます。また、近隣の稲門会や三田会との合同イベントも積極的に企画・開催していきますので、ご興味ある方はぜひご連絡ください。市川稲門会若手の会 世話人代表 日高孝史hidaka-itomon@orion.ocn.ne.jp。

また、浦安稲門会は、日常の各種イベントに必ず「若手」の会員を誘うようにし、努めて、各イベントで「若手」が集まりやすいようにしています。ぜひ、浦安稲門会 幹事長 増井孝史までご連絡ください。kobufutagami01@jcom.zaq.ne.jp

今後も、市川稲門会と浦安稲門会は合同で「若手校友の集い」を企画していきます。

今年は、まだ構想段階ですが、準備や後片付け不要のバーベキューを考えております。その際は、改めて、ご案内する予定です。



(文責 浦安稲門会 幹事長 増井孝史 91年社卒)

千葉県支部では、皆様の様々な活動をご紹介します、その輪を広げるお手伝いをしたいと思っております。

皆様からの、「私たちの稲門会ではこのような活動、催し物を行った」という情報をお待ちしております。

よろしくお願い申し上げます。

2023 稲門祭レポート

2023年10月22日（日）、2023稲門祭が早稲田キャンパス、大隈講堂、大隈庭園で開催され、約9,000人の校友やその家族などが来場、1日中早稲田の杜が賑やかな声に包まれました。

キャンパス内10号館や大隈講堂ではOB、現役学生による各種音楽団体等のステージが、3号館前や大隈庭園内特設ステージでは子供たちも参加して、歌に楽曲演奏、ダンスなどのパフォーマンスが繰り広げられた。まだアルコールの提供は禁止されていましたが、天気にも恵まれたことのあり、模擬店で購入した食べ物を手に、庭園内の芝生に座って旧交を温める方々の姿も見られました。

模擬店の出店も、コロナ禍前にはまだ完全に切り切れていないものの、約90もの団体が参加。その内容は、それぞれ趣向をこらした品や各地銘品販売、専門分野の相談提供コーナー等、多種に及んでいました。

千葉県支部も、例年通り11号館周辺へ出店し、千葉県の特産品を販売。当日参加校友の元気の良い投げ掛けも奏功。予定より販売が順調に進み、中には、「いつも落花生を楽しみにしていたけれど、売り切れてしまって残念でした」という声もいただきました。

更に私にとって楽しかったことがもう一つ。10年ほど年賀状のやり取りぐらいしかできなかった県外の同級生に、立ち寄ったあるブースで偶然に会い、それを機にその後も食事など、旧交を温めています。

なお、同日早稲田アリーナで実施されたホームカミングデーは、1973、1974、1978、1979、1988、1989、1998、1999、2008、2009年次の校友が招待され、約5,000人が参加されました。

2024年度も、10月20日の開催が予定されています。ぜひ皆様も、懐かしい出会いを求めて参加されたいかがでしょうか。

ご来場をお待ちしております。



稲門祭前日の様子。千葉県支部のブースは大隈侯像の後方でした。（椎名）

椎名 俊朗（1991 商）

編集後記

小生が支部だよりの製作に携わったのは角田支部長の時の第6号支部だよりにからで今回の第17号支部だよりでトータル12号にわたります。

その間、千葉県支部の稲門会にとって少しでも役に立てる媒体となるべく試行錯誤を繰り返し現在の支部だよりの形となりました。第18号からは新体制の総務委員会の新たな支部だよりの制作チームが担当いたします。今後もこれまで以上に支部稲門会の情報媒体として皆様のお役に立てることを願ってやみません。これまで皆様のご期待に十分に副えたかどうかわかりませんが各稲門会の皆様のご協力、ご理解、それに加えて事務局及び千葉県支部の各委員会、部会のご協力を得て何とか第17号まで作成することができました。総務委員会では引き続き支部だよりの発行に努めてまいります、皆様のご協力、ご理解が不可欠です。今後とも支部だよりに対しご協力と暖かいご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

永きにわたりありがとうございました。

T. M